

小学校高学年におけるリコーダーの演奏技能向上を目指した完全習得型反転学習と評価

佐藤 和紀^{*,**}, 深見 友紀子^{***}, 齋藤 玲^{*}, 森谷 直美^{****},
堀田 龍也^{*}

Practice and Assessment of Mastery Learning Type Flipped Learning Aimed to Improve How to Play the Recorder in Upper Grades of Elementary School

Kazunori SATO^{*,**}, Yukiko FUKAMI^{***}, Ryo SAITO^{*}, Naomi MORIYA^{****}, Tatsuya HORITA^{*}

1. 背景と目的

近年、反転学習や反転授業と呼ばれる授業形態が注目を集めている。重田⁽¹⁾は反転授業について「授業と宿題の役割を『反転』させ、授業時間外にデジタル教材等により知識習得を済ませ、教室では知識確認や問題解決学習を行う授業形態のことを指す」と説明している。通常、教師は授業内で児童生徒に知識を伝達し、授業外で既習内容の復習を行わせて学習の定着を図るが、反転学習の導入により、動画などを用いて事前に一定の知識を得させておき、教室内で知識や技能を「使う」活動を促し、学習の進度を速め、学習効果を向上させることが期待される。

また、山内⁽²⁾によれば、反転授業には完全習得学習型と高次能力学習型の2パターンがあることを指摘している。完全習得学習型は、全員が一定の水準に達することを目指し、はじめに学力を評価して、それに基づいて特別な処遇を適切に与えることで、全員をある基準以上の成績に到達させることを目指している。一方、高次能力学習型は、授業の目標を高次な能力にシフトすることを目指している。

初等教育においては、いくつかの反転学習の成果が報告されている。三井⁽³⁾は、小学校の自習時間で活用できる動画の開発を行い、それを活用した授業を実践している。その結果、動画を用いて自習を行った学級と、動画を用いずに直接担任教師が指導を行った他学級との間には学習効果に有意な差は見られなかった。このことから、動画教材は直接教師が指導することと同等の効果が得られることが示唆される。

また、稲垣ら⁽⁴⁾は小学校算数科の第6学年「比例と反比例」の学習において反転授業を行った際の、家庭学習におけるビデオ視聴のログデータとノート作成に着目して分析している。さらに佐藤⁽⁵⁾は、2012年度に算数の反転学習を試行し、十分な学習効果が得られたことを報告している。これらの報告から、小学校高学年における反転学習は実践可能であることが示唆される。一方で、稲垣ら⁽⁴⁾は現状ではその効果については十分な検証や実態把握がなされていないことも指摘している。

技能の向上を目的とした反転学習においては、大黒ら⁽⁶⁾による気体検知管の実験操作技能を高めるマンガ反転学習用理科教材の開発がある。しかし、大黒ら

*東北大学大学院情報科学研究科 (Graduate School of Information Sciences, Tohoku University)

**東京都杉並区立高井戸東小学校 (Takaido-Higashi Elementary School)

***京都女子大学発達教育学部 (Faculty of Human Development and Education, Kyoto Women's University)

****東京都北区立豊川小学校 (Toyokawa Elementary School)

受付日: 2016年2月1日; 再受付日: 2016年4月20日; 採録日: 2016年6月15日